

東日本大震災・原子力災害伝承館 館内語り部講話スケジュール

3月	午前 ①10:00～ ②11:15～	午後 ③13:15～ ④14:30～
1日	紙芝居『菜の花物語』（南相馬市）	浪江に生きる記憶－あの日から始まった「ふるさと」との対話（浪江町）
2月	震災発生から全町避難を振り返って（富岡町）	東日本大震災原発事故により避難した体験をダンボールアートを通して語り伝える（富岡町）
3火	休 館 日	
4水	東日本大震災と避難生活の実態（浪江町）	『残照』～震災の記憶～（相馬市）
5木	震災経験とその後の活動（南相馬市）	長い避難生活を支えた励ましの数々（富岡町）
6金	伝統文化存続の危機と伝承（双葉町）	原発事故が学校にもたらしたもの（南相馬市）
7土	防災意識を高めよう。みんなと、自分を！（南相馬市）	あの日を 忘れない それが備えの第一歩～震災の経験から伝えたいこと～（南相馬市）
8日	生きのびるために（双葉町）	当時11歳にとっての東日本大震災（富岡町）
9月	私の震災体験とそれから「仙台港での大津波、多賀城の職場、相馬の実家、そして大切な家族」（相馬市）	震災当日の行動と教訓及び復興事業について（いわき市）
10火	震災と私 ～その時、私の周りで起きたこと～（双葉町）	震災・原発事故を語る（双葉町）
11水	『残照』～震災の記憶～（相馬市） ※1階エントランスホールで実施	置き去りにされた動物（浪江町） ※1階研修室で実施 ※④の講話は15時～行います。
12木	原発から25キロに住む1人として（南相馬市）	紙芝居で伝えたいこと（浪江町）
13金	役場職員 震災直後の7日間（浪江町）	置き去りにされた動物（浪江町）
14土	福島民友新聞社の記者による語り部（イベント企画） ①④担当：福島民友新聞社論説委員会副委員長。国、県、双葉郡など幅広く取材している。 ②③担当：福島民友新聞社ふたば支社長。富岡町に拠点を置き、主に双葉郡の南部の現状を発信している。	
15日	防災意識を高めよう。みんなと、自分を！（南相馬市）	自分の命を守る（いわき市）
16月	あの日の震災から学んだこと（富岡町）	東日本大震災原発事故により避難した体験をダンボールアートを通して語り伝える（富岡町）
17火	休 館 日	
18水	福島第一原発事故における病院避難について（東京都※本人の被災体験ではなく聞き取りした内容です）	復興を支える 人の繋がり（富岡町）
19木	東日本大震災と避難生活の実態（浪江町）	あの日を 忘れない それが備えの第一歩～震災の経験から伝えたいこと～（南相馬市）
20金	震災・原発事故を語る（双葉町）	震災経験とその後の活動（南相馬市）
21土	震災・避難・現在の歩み（富岡町）	変わりゆくふるさと それでも前を向いて（双葉町）
22日	『残照』～震災の記憶～（相馬市）	自分の命を守る（いわき市）
23月	私の震災体験とそれから「仙台港での大津波、多賀城の職場、相馬の実家、そして大切な家族」（相馬市）	震災当日の行動と教訓及び復興事業について（いわき市）
24火	休 館 日	
25水	震災時の体験と伝えたいこと（大熊町）	東日本大震災から考える防災と社会課題（大熊町）
26木	あの日から13年間の久之浜町 そしてこれからは…（いわき市）	「当たり前」はない（大熊町）
27金	10:00～ 震災後の2日間とその後（大熊町） 11:15～ 震災・原発事故から復興へ（大熊町）	13:15～ 震災後の2日間とその後（大熊町） 14:30～ 震災・原発事故から復興へ（大熊町）
28土	震災経験とその後の活動（南相馬市）	双葉の子どもたち（双葉町）
29日	原発から25キロに住む1人として（南相馬市）	東日本大震災 娘との日々（富岡町）
30月	伝統文化存続の危機と伝承（双葉町）	生きのびるために（双葉町）
31火	休 館 日	

※タイトル横の（ ）内は語り部の震災当時の居住地です。

※スケジュールは2026/3/10現在のものです。

やむを得ない事情により、変更・中止、講話映像の上映となることがあります。